

バイブルスタディ Pastor JD Farag **2018.09.23**
エペソ人への手紙 6:18-24 「サタンが恐れるもの-祈りこそが答え-暴露完結編」

御言葉に入りましょう。

エペソ 6章 18節から終わりの 24節まで。

使徒パウロは聖霊によって、興味深く、そしてパワフルに締めくくっています。

18 あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。

そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

19 また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

20 私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果しています。

宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください

これには二つの意味があります。

パウロは文字通り、ローマ兵の監視下で鎖に繋がれていただけでなく、自分のことを鎖で繋がれた使節として見ていました。

鎖に繋がれたイエス・キリストの使節。名誉のしるし。

「鎖に繋がれていても、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。」

21 私の様子や私が何をしているかを、あなたがたにも分かってもらうために、愛する兄弟、主にある忠実な奉仕者であるティキコがすべてを知らせます。

22 ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。

23 信仰に伴う、平安と愛が、父なる神と主イエス・キリストから、兄弟たちにありますように。

24 朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人とともに、恵みがありますように。

祈りましょう。

愛する天のお父様、今、私たちがあなたに集中できるように助けて下さい。

特に今日、この箇所が与えられていることで、敵は再び、私たちの気を散らそうとしてくるからです。

敵は、あなたが聞かせようとするのを聞かせたくなく、あなたが示すことを見せたくないのです。

主よ、今朝、あなたが備えて下さっているものを何ひとつ見逃したくありません。

ですから、御言葉からはっきりと、具体的に、かつ個人的に私たちのいのちに語って下さい。

イエスの御名によって。アーメン。

まず、言葉遊びを許して下さいね。

答えられた祈りのゆえに、祈りが答えであることを説明します。

こう言うと、よく聞く決まり文句のように受け取られるかもしれません。

そうでないといいのですが。

祈りが、全てに対する答えであるという事実が変わりはありません。

私たちはそのことを知っているし、語ります。

しかし、祈りが人生の全ての状況に対する答えであると本当に理解しているでしょうか。

祈りが答えです。

どのように武具を着けるのですか？ “祈りによって” がその答え。

祈りを以て神の武具を着け、祈りで勝利して生き、祈りによって人生の試練に耐えることができる。

祈りが答え。

そしてこれも重要なことで、今日の御言葉に関連するのですが、霊的戦いに関しては祈りこそが答えです。サタンはこのことを知っていて、自分が知っていることをあなたに知られたくないと思っていますが。しかしサタンは知っているのです、祈りの、ある領域を攻撃してくるのです。これが、今日語りたいことです。

私は手紙の終わりにさしかかって、パウロがエペソの聖徒たちに祈りを求めていることに驚きを感じました。使徒パウロが祈りを求めていることに。

このように考えてみて下さい。

パウロは全ての武具を装備しているローマの看守によって、鎖に繋がれ座っています。

その状況で、エペソの教会に祈りを勧めているだけでなく、自分のためにも祈って欲しいと願っているのです。大切なのは祈りを求めているということよりも、彼が求めている祈りの内容です。

私の心を打ったのはそれなんです。

私は、この世がハイジャックしてくるのが大嫌いです。

アラブ人が、たとえであっても“ハイジャック”という言葉を使うべきではないことは分かっています。

けれど、私たちクリスチャンが主張すべきものを、この世がハイジャックするのが、本当にイヤでたまらない。

その中の一つが“成功の秘訣”という言葉です。

この世はその言葉を取って台無しにし、“この世の成功”という意味で乱用しています。

パウロの成功の秘訣は何だったのでしょうか。

それは、祈りの生活でした。

それが、パウロが「未信者に、恐れず大胆に福音を語るができるように」という祈りを彼らに求めた唯一の釈明に思えるのです。

私はこのことに非常に関心を持ちました。

なぜなら、彼はローマの看守によって鎖に繋がれているから。

パウロは義のために不当に繋がれ、監禁されていたのです。

なのに、福音を大胆に恐れずに伝えることができるように祈りを求めている!?

御言葉を学ぶ中で知るにつれて、すごく愛着がわいてきたこの男性、パウロ。

一体どんな人なのでしょう。

使徒パウロに、大胆になれるように祈りを求めさせたものは、一体何なのでしょう。

彼は大胆ではなかったのですか？

いいえ、大胆でした！

ただ、彼が大胆だったのは祈りがあったからで、また、大胆になることができるよう、人々に祈りを求めていたからです！

もちろん言うまでもなく、パウロは恐れを知らない人でした。

でも、彼が恐れを知らなかったのは、彼がそのように祈っていたからです！

パウロが祈らなかったこと、人々に要請しなかった祈りに注目して下さい。

私なら、こう祈りますよ。

「私のために祈って下さい！

私は不正にローマの牢に入れられて、鎖に繋がれている。釈放されるように祈って！」

皆さんも全く同じように祈るでしょうし、そのように人々に求めるはずですよ。

しかし、パウロはそうしなかった。

それが、パウロの人生とミニストリーの成功の秘訣であり、答えでした。

これが、弟子たちが、イエスに祈り方を教えてほしいと願った理由なのだと思います。

弟子たちがイエスに、説教の仕方や奇跡の行ない方、その他様々なことではなく、祈り方を教えてほしいと願ったことに興味をそそられますね。

彼らはイエスが持っていた力、イエスが行った奇跡を目撃したので、『祈りが源』『祈りが答え』『秘訣は祈り』であることは明白だったのです。

私たちはそれを知るべきです。

救い主の公生涯の間、弟子たちは真近でイエスを見ており、彼が皆から離れて祈るのを実際に目撃していました。イエスは絶え間なく、パウロが 18 節で書いているように、どんな時にも祈りました。

18 あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。

ある翻訳では、今では死語になっている“懇願”(supplication)という言葉が使われています。

Praying always with all prayer and supplication in the Spirit, and watching thereunto with all perseverance and supplication for all saints; (KJV)

基本的には、「非常に具体的な嘆願と要求を祈る」という意味です。

それは、何と言うか、ほぼ全領域に及びます。

なぜなら、「**あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも**」と言っているから。

パウロが言わんとしていたことは、いつも御霊によって祈ること。

ところで、いつも目を閉じて祈る必要はないんですよ！

車を運転しながらでも祈れます。運転中は目を閉じてはダメでしょ。

いつも御霊によって祈るのです！

これについてはすぐに話します。

19 節と 20 節。

19 また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

20 私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果しています。

宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください

パウロは自分のために祈ってくれるように求め、再度、とても具体的に要請しています。

21 節から 23 節。

21 私の様子や私が何をしているかを、あなたがたにも分かってもらうために、愛する兄弟、主にある忠実な奉仕者であるティキコがすべてを知らせます。

22 ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。

23 信仰に伴う、平安と愛が、父なる神と主イエス・キリストから、兄弟たちにありますように。

パウロは、ティキコが自分の様子についてエペソの教会に伝えると言って、手紙を締めくくろうとしています。ティキコは実際にそうしました。

パウロは、ティキコがエペソの教会を励ますことになると感じていたのです。

えっ!? パウこそが励ましを受け取るべきではありませんか？

彼が鎖に繋がれていたんですよ。

ところが、パウロはエペソの信者たちを励まし、そうすることを願いました。

これが祈りの力です。

興味深いことがあります。

あなたは、「祈りに関する全ての真理を知るなら、絶え間なく祈るようになる」と思うかもしれませんが、残念ながら、そうではない。

多くのクリスチャンにとって、祈りは一番最初にやることではなく、最終手段になっているのです。

ある夫婦の話を思い出します。

いつものことですが、妻が夫の所に来て「あなた、私たち、祈らなきゃ。」と言います。

すると夫は「えっ、そんなに悪いのか？」

あなたの奥さんが来て「祈らなきゃ。」と言っているのに、最初の反応が「なんてこった！ 最後の手段は祈りだ！」
違う！

祈りこそ、最初の反応であるべきなんです！

パウロが霊的戦いの文脈で、祈りの重要性を説いたのが偶然でないことは確かです。

状況を描写するのに、神が与えて下さった想像力を働かせることは、悪いことではありませんよ。

彼が書簡を書いた場所は牢獄でした。

パウロが鎖に繋がれて、そこに座って主を求め、神の御座の前で嘆願し、祈っている姿が想像できますね。

「主よ、この手紙をどう締めくくればいいですか？」

私は彼らを励まし、霊的戦いについて語りたいのです。どうすればいいですか？」

聖霊がパウロに靈感を授けたのは明らかで、彼は祈りの重要性を語って手紙を締めくくりました。

祈らないクリスチャンは敗北したクリスチャンで、それこそが敵が願っていることです。

どうして、クリスチャンが祈らないことを願うのですか？

私たちが敵について知っていることは何でしょうか？

イエスは「敵は盗み、滅ぼし、殺すために来る」と言いました。

敵はあなたを滅ぼしたいので、あなたに忍び寄り、観察し、攻撃する瞬間、つまり、あなたが無防備で疲れている時を待っている。

失望し、弱り果てている時、敵はそこにいます。

敵がよく知っていることで、あなたに忘れてほしいと思っていることは、『祈りが決め手』だということ。

祈りは、敵の敗北と、あなたの勝利を決定するものなのです。

この話を覚えていますよね。

あなたが敵を打ち負かす姿を、決して想像してはいけません。

敵は既に敗北しているから。

あなたはキリストにあって、既にあなたのものである勝利の中を歩めばいいだけです。

敵が知っていて、あなたに思い出してほしいくないことは、祈りが敵の運命を決定するということなのです。

だから、あなたが祈ろうとする時、色んな事が起こり始めるのです。

子供たちがケンカし始め、電話が鳴り…あらゆる事が起こってくる。

なぜなら、敵は、クリスチャンが祈り始めたら終わりだと知っているから。敗北するから。

それで、祈るクリスチャンが自分を打ち負かす前に、その人を倒したい。

祈らないクリスチャンは、敗北したクリスチャンというだけでなく、力のないクリスチャンなのです。

実はこれが、パウロが「**御霊によって祈りなさい。**」と言った理由です。

あなたが御霊によって祈る時、御霊の力を受けます。

なぜなら、「**あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。**」(1ヨハネ 4:4)

あなたはただ、祈りという武器を使えばいいだけです。

私はチャック・スミス牧師が使っていたたとえが大好きです。

決して忘れることはありません。

以前話したことがあると思いますが、もう一度、話すべきだと思いました。

二人が殴り合いをしていて、一人はナイフを振りかざしている。

ナイフを持っていない人はどうするでしょう？

対戦相手の手から全力でナイフを取ろうとします。それが決め手であることを知っているから。そのナイフは、祈りのナイフ。だからサタンは、クリスチャンに祈らせまいとする。祈るクリスチャンを待ち受けているものを知っているから。

パウロがここで、「御霊によって祈る」と言っている意味を理解することは重要です。それはどのように働き、どのようなものなのか。答えは二つ。

①「御霊によって祈る」とは、「祈りの言語で祈ること」

私は、誰かを神学的に刺激したいわけではありません。それは今日のトピックではないし、それに時間を取るつもりもありません。しかし、聖霊の賜物は今もあるとはっきり言っておきます。聖霊の賜物は終わっていません。私にはこの賜物があって、異言で祈ります。神が与えて下さった祈りの言語。これを受けた時、どれほど人生を変えるものであったか、到底言葉では説明できません。

②「御霊によって祈る」とは、「御霊に導かれて祈ること」

聖霊は、あなたが祈れるようにし、力づけて下さる。記憶に留めるために繰り返して言います。サタンは、祈るクリスチャンには力と勝利が待ち受けていることを知っている。だから、あなたが祈ろうとする時、戦いの火蓋が切られるのです。

ここで、私自身について語ることを許して下さい。

教会に来るまでの間も、私の人生と祈りの生活の中で主がして下さいったことをシェアするようにと、主が本当に願っているのが分かっていました。

家から教会まで、道路状況にもよりますが、制限速度で 22 分かかります。

この時間は私にとって、何にも代え難い祈りの時間です。

面白いことに、信号で止まった時に私を見た人々は、独り言を言っていると思っているでしょう。

私が誰に話しているか見当もつかないのだから。

そうやって、絶え間なく祈るのです。

異言が与えられているので、今朝の祈り会も異言で祈りましたが、聖霊に導かれることによっても祈りました。絶え間なく祈るためには、祈りの言語（異言）と、聖霊に力づけられることの両方が必要なのです。

それが、パウロが I コリント 14 章で言っていることです。

もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。

それでは、どうすればよいのでしょうか。

私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。

霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。(I コリント 14:14-15)

パウロが霊で賛美すると言っているのは、神は時々、未知の言葉（異言）にメロディーを与えて下さるのです。私も以前経験し、見たこともあります。本当にパワフルで、鳥肌が立つところのものではありませんよ。

「**霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。**」とは言い換えれば、「私には両方必要であり、両方を絶え間なくしています。」ということです。

補足として言わせて頂くと、私が「あなたの牧師は偉大な祈りの人なんだぞ！」と言っているとは受け取らないで下さい。

神は祈りの生活の中で、私を成長させて下さいました。

でも正直に言えば、「自分は十分に祈っている!」と言える人がいるのでしょうか。

神に力強く用いられた偉大な神の人たちが生涯の終わりにさしかかった時に、もっとやっておけば良かったことを聞かれて、「もう一度人生をやり直せるなら、もっと祈ります。」と答えるのを何度耳にしたでしょう。そうです。もっと祈る。

Iテサロニケ5章、パウロがテサロニケ教会に宛てた手紙に書いたこと。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。

これが、キリスト・イエスにあつて神があなたがたに望んでおられることです。(Iテサロニケ5:16-18)

皆さん、正直になりましょう。

教会にいるのですから、正直でなければなりませんよね。

私たちは、いつも喜んでいっているのではなく、全ての状況で感謝しているのではなく、絶対にいつも祈ってはいないことを認めるべきではないでしょうか。

そうしていない主な理由は、私たちが祈りをどのように捉えているか、見ているかによるのだと思います。

祈らない最大の理由は、祈りが“特権”ではなく、“しなければならないこと”であるという捉えです。

単純に言うなら、多くの人が祈りを雑用と見なしているのです。

なぜなら、祈りは重労働だから。

正直になりましょうね。

なぜ祈りが重労働なのか知っていますか？

パウロが「女性が産みの苦しみをするように、教会のために祈りの中で労苦している」と言っていたと思います。

彼は祈りの中で労苦していました。

重労働である理由は、私たちは自然界にしながら、霊的存在と霊的戦いをしているから。

だから、こんなにも大変なんです。

祈りは意気地なしのものでも、小心者のものでもありません。

祈りは最前線での手強くて、荒々しい働き！

あなたは戦いの中に、遊び場ではなく戦場にいるのです！

聞いて下さい。

確かに祈りは重労働です。戦いです。

だけど、祈りの中で、祈りを通して勝利の盃を味わう時、あなたの祈りに対する見方が変わります。

別の言い方をすれば、神があなたの祈りに、神にしかできない奇跡的な方法で答えて下さるのを見る時、祈りについての見方が変えられる。

「おお！祈りはパワフルなんですね！」そうですよ！

「神様は私の祈りに答えて下さった！」そうです！

「ああ…、答えは祈りだったんだ。」そうなんです!!

これは、主が私の祈りの生活の中で、個人的にして下さったことです。

教会に来るまでの間、人生で祈りが答えられたこと、勝利の盃を味わったことに関して、適切な言葉で、的確にメッセージできるようにと祈っていました。

私は主が良いお方であることを味わい、見てきました。

それによって、もっと祈りたいという願いが引き起こされたのです。

偉大な人だと受け止めないでほしいのですが、私もその時には、「もっと祈ればよかった」と言うはずです。

理解する上で非常に重要なので、これを考えてみましょう。

神があなたに祈るように強制したり、要求しているとは決して思わないで下さい。

祈りがそういうものなら…と想像できますか？

祈りが“特権”ではなく“しなければならないこと”だとしたら…

例えば、「朝早く起きて、祈らねばならない！」なら、「分かりましたよ、神様。祈ればいいでしょ、祈れば！」

神が「大丈夫だよ。その必要はないよ。」「しなくてもいいよ。いいんだよ。」と言うのが想像できます。

「あなたと時間を過ごさなければならいんでは!?」

「いやいや、大丈夫だから。気にしなくていいんだよ。

したくないなら、それがあなたの願いじゃないのなら、わたしは、そうして欲しいとは思わないよ。」

神は、自然の領域に於いて、自分ではどうすることもできない状態に私を置きました。

個人的な祈りの生活の中で、私が超自然的な神に向きを変えるためにです。

神は環境を調整し、もっと言えば、私の人生の歩みを演出するのです。

昔も今もそう。

「自分には完全に、絶対に無理！ 不可能！ どうしようもない！」と気づく状況に達する。

そうして、自分が不可能になった時、私は唯一、可能にされる方に向かうのです。

人が救われることの難しさ（不可能さ）について質問された時のイエスの答えは、

「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます」(マタイ 19:26)

主の御使いがマリアに、「あなたは処女でこの世の救い主を産む」と告げた時（ルカ 1:31-33）、彼女がどれほど驚愕し、呆然としたか、想像を絶するでしょう。

マリアは御使いに言った。

「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」(ルカ 1:34)

御使いは答えました。

「神にとって不可能なことは何もありません。」(ルカ 1:37)

「何もない」の意味がわかりますか。

不可能なことは全く、一切ないのです。

平日に行っている詩篇の学びは、神様が私たちの歩みを聖別している感じです。

「いいか、わたしを見ていなさい。あなたをビックリ仰天させるから。」

「それは不可能だと思っているのかい？ よろしい。見ていなさい。」

私たちは「神にとって不可能はない」と書かれた詩篇を語り合い、暗記します。

でも、考えて見て下さい。

神がその不可能な事を可能にするためには、まず、それが、あなたには不可能でなければならない。

言い換えると、まだ自分でできるなら、神様に任せていないということ。

神の御元に行き、両手を差し出して「神様！ これは不可能です。私にはできません！」と言うことはないから。

まだ自分の手に負えそうなら、自力で何とかしようとするから。

あなたは知っていますよね。

自分の肉の力を尽くして、何とかしようとするのです。

神は、あなたが限界に達するのを忍耐強く待っておられる。

「彼はまだ気づいていない。自分でできると思っているが、いつか不可能だと気がつく。」

私の好きな御言葉は、自分に当てはまることなのですが、**創世記 18:14** です。

「主にとって不可能なことがあるだろうか。」

わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」

サラは笑った、と書いてあります。

サラは心の中で笑って、こう言った。

「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」(創世記 18:12)

彼女を責めることはできませんよ。

サラは出産年齢をとうに過ぎた 90 歳でしたから。

主は、「血のつながりのある息子、約束の子を産む」とアブラハムに語られた後、創世記 18:14 で修辞疑問を投げかけました。

「主にとって不可能なことがあるだろうか。」(創世記 18:14)

「わたしを見ていなさい。」

100 歳だったと思われているアブラハムと 90 歳のサラ。

彼女はとっくに、子供が産めなくなっています。

「神様、何をしていますんですか？」

「わたしはあなたを、自力では不可能な状態に置かなければならなかったのだ。

そうすれば、わたしが不可能を可能にできるから。

あなたがまだ自分でできるのなら、わたしを手助けしようとして、エジプト人の女奴隷ハガルによって子供を得るだろう。それならあなたにも可能だから。」

興味深いですね。

私たちがまだ自分でできる時は、肉の力を尽くして頑張り、多くのイシュマエルを生んでしまうのです。

イサクという名の性質は、ヘブル語でも、私の母語のアラブ語でも同じです。

英語ではアイザック (Isaac)、ヘブル語ではイタック (Yischaq)、アラブ語ではイツァク (Yitzhaq)

イタックであれ、イツァクであれ、“笑い” という意味です。

これは笑えること、不可能なことなんですよ。

これが、イサクの名前の性質。

「わたしは笑ってしまうようなことをする。不可能なことをする。

しかし、それが不可能になるまで、わたしは行うことができない。」

とても単純なことを言っているのに、非常に意味深です。

でも、その通りですよ。

それが不可能になるまで、それは可能にならない。

私がつりわけ大きな困難や試練の中にいる時に、いつも自分自身にしている問いかけはこれです。

「私が神に立ち返って、自分にはできないことを神にしてもらおうとするために、神は私が不可能な状況になるのを許されるのではないか？」

そうして、神に叫ぶ時、神はその叫びを聞いて、不可能なことを可能にされるのではないか？」

それだけ。

あなたが唯一後悔するのは、すぐに祈らなかったことです。

なぜかと言うと、状況が不可能な時、神に叫び、祈るなら、神はその叫びを聞いて、あなたが必要としていることに、常に十分な恵みを与えて下さるから。

時に神様は、私の祈りに奇跡的に答えて下さいます。

私は甘やかされているんです。

昔に戻ってスパムを食べることなんかできません。

今は、特上のリブローズを味わっているのです。

もっと良い表現があるなら、第一礼拝の後で教えて下さいね。

あと 2 分で、私自身のパワフルな証しを分かち合いたいと思います。

私と妻は、アブラハムとサラのようでした。

子供を産むのは不可能だと言われ、養子を勧められました。
養子を試し、実際、15歳の女性が産んだ女の子を養子縁組するところだったのです。
初めてその女性に会う2週間前に、彼女はキリストに人生を献げ、準備はすっかり整っていました。

きちんとした日付を言わないといけませんね。
1997年6月1日にその子が生まれましたが、母親に自分の赤ちゃんへの愛着が湧いたのです。
私たちは出産に立ち会い、女の子に名前を付け、家に連れて帰ろうとしていたところでした。
その時、産みの母親が「お二人に渡す前に、赤ちゃんを家に連れて帰りたい。」と言い、そして2週間後、彼女と
赤ちゃんとの絆ができて、自分の手元に置きたがっていることが分かったので養子を断念したのです。
私が神に叫び求めたのはその時でした。
決して忘れることはありません。昨日のことのよう覚えています。
私は、「実の息子を与えて下さるなら、事業を売却し、一生あなたに仕えます。」と誓いました。

その3年前の1994年8月14日に、私の父が心臓発作で突然亡くなりました。
9か月後の1995年5月22日、私の母が、私の腕の中で息を引き取りました。
母が死に近づいている時、私は神に向かってこう叫びました。
「神様、あなたが母を連れて行くなら、私にはもう親がいません。それに、私自身も親ではない。
どうか、私に息子を与えて下さい。」

養子縁組が不成立に終わり、再び神に叫んだ時、神は非常に具体的なことばで祈りに答えて下さいました。
それが、アブラハムとサラに言われた創世記18章の御言葉です。
1997年6月1日、神はアブラハムに言われたように、私に言われました。
「来年の今頃、わたしはあなたに、あなたのイサクを与える。」
「おお、主よ、それは不可能ですよ…」
「不可能って言ったのか？ わたしを見ていなさい。」

そして8月14日に実の息子を妊娠。父が亡くなったのと同じ日。
出産予定日が5月22日。母が亡くなった日。
「主よ、母を連れて行くなら、私には両親がいなくなり、私自身も親ではありません。どうか息子を下さい。」
と祈った、まさにその日です。
息子は予定日の5月22日より遅く、1998年6月2日に誕生しました。
神様が語られた、ちょうど1年後に。

ほどなくして事業を売却し、アイダホ州コー・ダリーンで最初の教会を始めました。
それで、今日、牧会させて頂いているこの素晴らしい教会で、皆さんの前に立っているのです。
神は不可能なことを可能にする神です！
決して、絶対の絶対に、神にもできないことがあるなどと、敵によって思わされてはなりません！
主にとって、困難なことは一つもないのです。

祈りましょう。
天のお父様、本当に感謝します。
エペソ6章で的確に語られた御言葉をありがとうございます。
あとは聖霊様が働いて下さいますように。
私はベストを尽くしました。
あなたは私の心をご存知です。

私たちが祈る人として下さい。
祈りが「やらなければならないこと」ではなく「特権」でありますように。
イエスの御名によって。
アーメン。

「きょう、もし御声を聞くなれば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi